

SDGs未来都市等進捗評価シート

2019年度選定

新潟県見附市

2021年8月

SDGs未来都市計画名

見附市 SDGs 未来都市計画
住んでいるだけで健康で幸せになれる健幸都市の実現
～「歩いて暮らせるまちづくり」ウォークブルシティの深化と定着～

自治体SDGsモデル事業

「歩いて暮らせるまちづくり」ウォークブルシティの深化と定着

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

(1) 計画タイトル

見附市 SDGs 未来都市計画 住んでいるだけで健康で幸せになれる健幸都市の実現 ～「歩いて暮らせるまちづくり」ウォークブルシティの深化と定着～

(2) 2030年のあるべき姿

人々が健康で、かつ、生きがいを持ち、安全安心で豊かな生活を送れる状態を「健幸＝ウェルネス」と呼び、市が行うまちづくりの要素すべてにおいて「健幸」の理念を広げ、市民みんながイメージを共有しながら、超高齢・人口減少社会においても持続できる都市を実現すべき将来像として設定する。

(3) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた優先的なゴール

経済	社会	環境
 8 働きがいも 経済成長も	 3 すべての人に 健康と福祉を  11 住み続けられる まちづくりを  17 パートナーシップで 目標を達成しよう	 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに  11 住み続けられる まちづくりを  15 陸の豊かさも 守ろう

(4) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2020年（現状値）		2030年（目標値）		達成度 （%）
1	主要企業の地元就労率 【8.8】	2017年度 38.1 %	2020年度	41.6 %	2021年	50 %	29.4%
2	創業・起業の件数 【8.3】	2015～ 2017年 度 15 件（累計）	2020年度	27 件（累計）	2021年	24 件（累計）	133.3%
3	中心市街地での出店数 【8.3】	2015～ 2017年 度 8 件（累計）	2020年度	11 件（累計）	2021年	12 件（累計）	75.0%
4	見附市外から転入した人数 【3.2、3.7、11.3】	2017年10 月～2018 年9月 1,003 人	2020年度	954 人	2021年	+150 人	104.0%
5	20代、30代の社会動態 【3.2、3.7、11.3】	2017年10 月～2018 年9月 △ 24 人	2020年度	△ 20 人	2021年	+15 人	29.4%
6	介護認定率の伸びの抑制 【17.14、17.17】	2017年度 17.1 %	2020年度	17.6 %	2021年	18.1 %	102.8%
7	コミュニティバス利用者数 【7.3、11.2、11.7】	2017年度 161,458 人	2020年度	160,381 人	2021年	200,000 人	-2.8%
8	エネルギー起源CO2排出量 【15.1】	2017年度 261 千 t	2020年度	251 千 t	2021年	273 千 t	109%

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

(5) 「2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

全体的には75%程度の達成度と分析。

<順調に進捗したKPI>

【創業・起業の件数】：段階的に支援を行うことを目的に、意識啓発を促すセミナー、起業・創業に必要な基礎知識を学ぶ連続講座「起業・創業塾」の2段階で開催。実際に創業・起業をする際の支援として補助金も用意。R2年度の合計参加者30名の内、3名が補助金申請に至り、前年度から3件の増加となった。

【20代30代の社会動態】：達成度はまだまだ低いが、前年度（△57人）と比較すると大きく改善（+37人）。前年度は住宅を理由とする30代の流入人口が減少していたが、市で実施する新築住宅取得補助金を住宅関係者に改めてPRし、R2年度は改善。、市全体の社会動態も6年ぶりにプラス（+8人）となった。

<進捗が芳しくなかったKPI>

【中心市街地での出店数】：出店相談は2件あったものの、コロナ禍の影響により出店には至らず、前年度から実績を積み上げることが出来なかった。R3年度も情勢は変わらないが、コロナを踏まえた営業方法等の周知を図り、R3年度では既にテイクアウトに特化した営業形態の店舗が出店するに至った。

【コミュニティバス利用者数】：コロナ感染拡大の影響を受け、外出の自粛要請や休校となる高校等があり、初めて前年度より減少となった。R3年度は感染症対策の徹底とともに、利用ニーズの高い朝夕の時間帯は運行間隔を20分間隔に短縮するなど、利用実態に合わせたダイヤ改正により、利便性向上を図る。

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2019年～2021年

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2018年実績	2019年実績	2020年実績	2021年目標値	達成度(%)
1	郊外集落地域の維持	地域コミュニティゾーンの設定	2017年度 素案検討		2019年度 設定完了	2020年度 詳細な区域を新たに設定完了	2021年度 設定完了	100.0%
2		地域コミュニティゾーン内に住み替えた世帯数	2017年度 0世帯/年		2019年度	住み替えを誘導するための補助制度の周知をR3年度に、実施をR4年度から行うこととなったため、R4年度からの実施に変更。評価はR4年度以降から実施。		2021年度 0世帯/年
3	健康施策のAIやSIBの活用	健康ポイント・生活習慣病予防プログラム参加による医療費の抑制額	2017年度 0千円		2019年度 0千円	2020年度 19,897千円	2022年 35,100千円	56.7%
4		健康ポイント・生活習慣病予防プログラムへの参加者数	2017年度 2,450人		2019年度 3,150人	2020年度 3,473人	2022年 3,150人	146.1%
5	見附駅の再整備	駅周辺イベントのイベント開催数	2017年度 0回/年		2019年度 3回/年	2020年度 10回/年	2021年 2回/年	500.0%
6	多様な観光資源を活用した地域商社組織化事業	みらい市場販売金額	2017年度 8,000万円		2019年度 8,540万円	2020年度 10,237万円	2021年 10,000万円	111.9%
7	みつけ生涯現役促進協議会の取り組み	高齢者雇用のマッチング数	2019年2月 27人		2019年度 89人	2020年度 102人	2020年 120人	80.6%

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2019年～2021年

(2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

SDGsの普及啓発を目的として、R2.4月に「みつけSDGsパートナー制度」（ガイドラインの「宣言」レベルに該当）を立ち上げ、口コミ的に加盟の輪が広がっており、R3.8月末で33団体を認定。市としては、パートナー団体の活動の周知・PRの面で支援を行っており、「認知度が向上して活動が行いやすくなった」「参加してくれるメンバーが増えた」などの声をいただいている。

(3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

全体的には90%程度の達成度と分析。

<順調に進捗したKPI>

【健康ポイント・生活習慣病予防プログラムへの参加者数】：SIBの枠組みを活用した見附市、川西市、白子町の3自治体連携の取り組み。コロナ禍の下、過度な自粛はかえって健康2次被害を生み出すとしてキャンペーンを展開。就労層向けの夜間短期コースの開催や、健幸アンバサダーを通じた口コミによる勧誘等を実施し、着実に参加者増に繋がった。

【みらい市場販売額】：SNSによる情報発信を強化するとともに、コロナ禍を踏まえマスク、弁当、総菜といったニーズの高い商品を拡充。固定客が増えたことにより売上増に繋がった。

<進捗が芳しくなかったKPI>

【高齢者雇用のマッチング数】：前年度より成果は積み上げられたが目標値の達成はできなかった。要因は高齢者への情報伝達が弱かったと考えており、相談窓口の場所を変更し充実化を図る。

(4) 有識者からの取組に対する評価

・小さい自治体として、コミュニティワゴンを利用することで、経済・社会・環境の好循環が生まれている点は評価できる。また、様々な前向きな取組を進められ着実に成果を収められている点も評価できる。

・健康面での取組は、予防プログラム参加者数、医療費削減も含めて着実に成果を上げていると史料する。

・健康運動教室参加が停滞しているのに健康ポイント参加者は増えているのは興味深い。

・Well Beingから交通システムの整備、商業街区の活性化に向けて戦略的で包括的な計画に着実に成果を上げていることが高く評価できる。

・創業起業の件数、出店数も高い水準を確保していることは大いなる達成として評価できる。

・健康から交通や経済に至るまでまさしくSDGsの先導例であるが、脱炭素の先行地域の募集へも是非ともチャレンジされることを期待する。

・環境面から社会・経済への波及が弱く、そこが残念である。また、公共交通促進が掲げられているが、環境面での追加的取組の検討が望まれる。二酸化炭素排出量については実際には2020年度は減っているが目標量は増加しており、CASBEE取得への補助金も実績は増加しているが目標値は減少していると思料する。

2. 自治体SDGsモデル事業

(1) モデル事業又は取組名

「歩いて暮らせるまちづくり」ウォーカブルシティの深化と定着

(2) モデル事業又は取組の概要

地方での生活においては、車社会で一人一台必須であるという概念から脱却し、誰もが健康で「歩いて暮らせるまちづくり」ウォーカブルシティを推進し、我が国における地方創生の先駆的モデルを構築するため、下記のポイントを設定し、総合的な視点を持ちながら、戦略的に取り組みを進めていく。

1. 過度な自家用車依存から脱却するための公共交通の整備
2. 歩きたくなる、歩いてしまう歩行環境の整備
3. 出かけたい場所の創出
4. 自然災害への備え
5. 都市機能の集約化、まちのコンパクト化

(3) 三側面ごとの取組の達成状況

取組名	取組内容	指標名	当初値	2018年実績	2019年実績	2020年実績	2021年目標値	達成度(%)
【経済】 ①-1 出かけたい場所の創出	中心市街地への来場を促す魅力的なイベントを開催し、商店街も個々の魅力を挙げるなどして相乗効果を図り、まちなかの賑わいを創出する。	①まちなか賑わいイベント参加者数	2017年度 25,934人		2019年度 33,530人	2020年度 17,240人	2021年 28,000人	-22.8%
	主要まちなか賑わい拠点5施設の魅力を向上し集客を図るとともに、周囲への回流を促し、賑わい創出に寄与する。	②主要まちなか賑わい拠点施設の来場者数	2017年度 1,814,286人		2019年度 1,888,546人	2020年度 1,632,491人	2021年 2,000,000人	-97.9%
【社会】 ②-1 歩きたくなる、歩いてしまう歩行環境の整備	歩きやすく快適な歩行空間のため、段差解消等バリアフリー化を行った歩道の整備を進める。	①バリアフリー化された歩道延長	2017年度 37.8km		2019年度 39.2km	2020年度 39.3km	2021年 39.5km	88.2%
	花と緑につつまれた空間を市民ぐるみで創出するため、道路脇、街路樹、水路、公園・緑地などの緑化を、市民とともに積極的に進める。	②快適空間づくり事業団体数	2017年度 77団体		2019年度 83団体	2020年度 87団体	2021年 83団体	105.7%
【社会】 ②-2 都市機能の集約、まちのコンパクト化		①居住誘導区域内に住み替えた人への住宅取得補助件数	2017年度 0件		2019年度	住み替えを誘導するための補助制度の周知をR3年度に、実施をR4年度から行うこととなったため、R4年度からの実施に変更。評価はR4年度以降から実施。		-
	空き家バンクHPのリニューアルにより閲覧数を増やすとともに、既存住宅ストックの流通促進を図ることで活用される件数増加を図る。	②空き家バンクの活用件数	2017年度 20件(累計)		2019年度 42件(累計)	2020年度 52件(累計)	2021年 26件(累計)	53.3%
【環境】 ③-1 過度な自家用車依存から脱却するための公共交通の整備	コミュニティバスを運行しウォーカブルシティの実現を下支えするとともに、生活利便施設へのアクセスを容易にまちなかの賑わい創出を図る。	①コミュニティバスの利用者数	2017年度 161,458人		2019年度 184,647人	2020年度 160,381人	2021年 200,000人	-2.8%
	コミュニティバスの運行本数の増加により、待ち時間の短縮を図り、利用者の利便性の向上を図る。	②バス待ち時間間隔の向上	2017年度 29分		2019年度 27分	2020年度 27分	2021年 20分	22.2%
【環境】 ③-2 自然災害への備え	総合防災訓練に毎回1万人以上の市民参加を呼び込み、共助で災害に強いまちづくりを進める。	①防災訓練参加者数	2018年度 12,220人		2019年度 11	新型コロナウイルスの感染拡大により、2020年度は訓練規模を縮小して実施し、情報伝達訓練のみを実施したことにより参加者数は0人となった。		-

2. 自治体SDGsモデル事業

(4) 「三側面ごとの取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

全体的には60%程度の達成度と分析。

<順調に進捗したKPI>

【快適空間づくり事業団体数】：身近で気軽に取り組むことができる街路樹緑化のPRに努めた結果、前年度から4団体の増加につながった。市内の緑花推進を推進し、思わず歩きたくなる景観、環境を創出することで健康維持、社会保障費の抑制等の健康面の効果に繋げていく。

【空き家バンクの活用件数】：市外へ発送する固定資産税納付書に空き家バンクの情報を同封するとともに、市内不動産協会と連携し新規登録物件の掘り起こし活動を継続。空き家バンクの閲覧回数が増える（20,750→24,100回/年）のに比例して、成約件数も増加した。

<進捗が芳しくなかったKPI>

【まちなか賑わいイベント参加者数】：コロナの影響により多くの賑わいイベントが中止となり、大きく実績値を落とす結果となった。しかし、感染症拡大が落ち着いた秋頃には、コロナ感染症対策に対応した形式（入場制限、一方通行）で物産フェアを開催でき、今後のロールモデルとすることができた。まちなかの賑わいや回遊する意識が絶えないように、コロナ対策方法の事例を周知していくことで、今後もイベント開催の支援を行っていく。

2. 自治体SDGsモデル事業（三側面をつなぐ統合的取組）

(1) 三側面をつなぐ統合的取組名

「歩いて暮らせるまちづくり」ウォーカーシティの深化と定着

(2) 三側面をつなぐ統合的取組の概要

総合的取組は、自治体SDGs事業における三側面の各施策を相互に補完する取り組みであり、①公共交通の充実化等による外出しやすくする仕掛け、②新規出店に関する支援や観光客の呼び込み等による賑わいを創出する仕掛け、③健康的なライフスタイルや住環境の在り方を啓発し、市民の行動変容を誘導する仕掛けの3つに分類される。同時並行的に施策を行うことで、①外出の促進が②賑わいの創出へと繋がり、人と人との交流を通して生きがいや活躍の場が充実していくことで、③健康的な暮らしを求めるよう行動変容していく好循環を期待しており、そのような好循環が生まれやすい都市環境の姿は「歩いて暮らせる」ウォーカーシティにつながっていくものと考えている。

(3) 三側面をつなぐ統合的取組による相乗効果

経済⇄環境	経済⇄社会	社会⇄環境
<p>●当市のSDGs推進の根幹となる公共交通の利用促進を図るため、コミバスへSDGsマークをラッピングしたり、デマンドタクシー運賃の100円割引キャンペーンを行うなどした結果、コミバスおよびデマンドタクシーの利用者数が過去最高人数を達成するなど、自家用車依存から公共交通へのモータリシフトに着実に繋がっているものと認識している。交通ルートの最適化およびバス口の活用検討により、公共交通の人口カバー率を向上させ、公共交通へのアクセスを容易にすることで、更にモータリシフトを促進させていく。また、ガーデン街道は検討中ではあるが、イングリッシュガーデン内に整備した飲食・物販施設の効果もあり、集客力の強化が期待される。市内の他の観光素材と組み合わせで発信し、地域内の経済活性化へつなげていく。</p>	<p>●出店者の増加が各種メディア等での注目を集め、更に新規出店者を呼び込むという好循環が生まれつつある。また、公共交通の利用促進策が、商店街へのアクセスを容易にすることで、自家用車を運転できない学生等も呼び寄せ、多様な世代の交流創出が期待される。他にも、新規出店者が続くことで、そのために商店街に足を運ぶ機会を創出し、歩数の増加につながることで、心と身体の両方が健康になる環境を生み出すことができる。健康寿命が延伸されることで、社会保障費の抑制という大きな効果につなげていく。</p>	<p>●当市のまちづくりのモデル地区として、ウエルネスタウンに防災倉庫を整備し、自然災害への強靭性を高めるとともに、地区内にコミバスの停留所を新たに設置したこと、正に「歩いて暮らせるまちづくり」の都市の姿を見える化できたものと認識している。また、住宅性能の重要性を啓発するパンフレットを配布するとともに、良質な新築住宅への補助、断熱性能を高めるためのリフォーム補助も実施することで、結果的に省エネ性能の向上につながり環境負荷低減が図られた。他にも、空き家バンクを通じて中古住宅の活用を促しているが、各種チラシや積極的な対応により活用件数が続伸しており、限りある資源を有効利用しようとするストック型社会への意識が少しずつ高まってきていると感じている。</p>

(4) 三側面をつなぐ統合的取組の達成状況

No	指標名	当初値	2018年実績	2019年実績	2020年実績	2021年目標値	達成度(%)
1	【経済→環境】公共交通空白地域の解消率	2017年度 89 %		2019年度 92 %	2020年度 92 %	2021年 92 %	100.0%
2	【環境→経済】観光バスツアーの台数	2017年度 124 台		2019年度 107 台	2020年度 9 台	2021年 150 台	-442.3%
3	【経済→社会】中心市街地での出店数	2017年度 8 件(累計)		2019年度 11 件(累計)	2020年度 11 件(累計)	2021年 12 件(累計)	75.0%
4	【社会→経済】健康運動教室の参加者数	2017年度 1,395 人		2019年度 1,351 人	2020年度 1,232 人	2021年 2,000 人	-26.9%
5	【社会→環境】新築住宅(CASBEE 見附準拠)の取得に対する補助金申請件数	2017年度 47 件/年		2019年度 55 件/年	2020年度 68 件/年	2021年 30 件/年	123.5%
6	【環境→社会】地域防災組織参加の世帯数の割合	2017年度 93 %		2019年度 94 %	2020年度 94 %	2021年 100 %	14.3%

(5) 自律的好循環の形成に向けた取組状況

・当市の自律的好循環を生み出す手法としては、「①基盤インフラとして公共交通網の利便性を上げ、交通弱者でも外出を誘導」「②商店街等への回帰人口を増やし、人が集まることで売り上げ増加」「③商圈としての魅力向上が、新規出店など新たな民間投資を呼び寄せ、更に人が集まるようになるという好循環を生み出す」というものであり、ひいては、市全体の魅力が向上し、定住人口の増加にまで繋がっていく。

・R2年度はコロナの影響により、公共交通の利用者数も初めて減少。人流抑制の観点から、不要不急の外出を自粛するよう呼びかける国の方策もあり、市内の飲食店を中心に、営業機会の減少が顕著であり、自律的好循環の進捗は進まず、まさに耐え忍ぶような状況であった。

・しかし、コロナ対策の徹底、健康二次被害を防ぐ観点から適切な予防対策を行った上での運動や交流の推奨などの取り組みから、徐々にではあるが、まもなく外出する市民が増えてきたように感じている。

・もちろん、完全に元の生活の状況に戻ったわけではないが、Withコロナに適したテイクアウト専門や自動販売機を利用した無人での営業方法が市内でも現れてきており、少しずつ現在の状況を回復させていくことで、自律的好循環の促進を図りたい。

(6) 「三側面をつなぐ統合的取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

全体的には60%程度の達成度と分析。

<順調に進捗したKPI>

【新築住宅の取得に対する補助金申請件数】：CASBEEを参考に市独自基準を定め、その基準をクリアする高性能な住宅に対して補助金を交付し、住民の健康増進と優良な住宅ストックの増加を目指す取り組み。R2年度は市内住宅業者に改めて制度の周知を行い、積極的な活用を促すとともに、市民向けに住宅における性能の重要性を啓発するパンフレットを配布したこともあり、申請件数が増加したものと分析。市民へのパンフレット配布時には賛否両論いただいたが、今後も活動は継続していく。

<進捗が芳しくなかったKPI>

【観光バスツアーの台数】：コロナの影響によりバスツアー自体の中止が続き、昨年度から大きく減少。原因は明らかで外的要因の部分が多いが、コロナによりマイクロツーリズムが注目を集めていることを逆手に取り、今後は市内の観光資源を組み合わせ半日程度のドライブコースを設定してHPで発信するなど、出来る部分から活動していく。

【健康運動教室の参加者数】：ターゲットを絞っての募集告知により80人程度の新規参加者があったが、コロナの影響により多くの高齢者が退会してしまい、合計では減少となった。ターゲットを絞っての募集告知は成果も出ており継続するが、健康運動教室のマンネリ化は避けられず、新たな魅力の追加が必要。今後はSIBによる民間の力を活用し、魅力的な運動プログラムの検討や、swc-AIを用いて医療費抑制効果を算出し、分かりやすくメリットを伝える等で改善を図っていく。

2. 自治体SDGsモデル事業（三側面をつなぐ統合的取組）

(7) 有識者からの取組に対する評価

- ・CASBEE補助金申請件数が着実に伸びている点を評価しつつ、こうした動向による経済的、環境的効果についての検討を進められることを期待する。
- ・若者の中心市街地への新規出店が増えているのは心強く、評価できる。
- ・医療費の抑制額が2020年で2000万に達しており、4万人の住民規模10%が住民が自主的に予防プログラムに参加していることと併せて、素晴らしい成果となっている。歩道の整備と併せて総合的な健康政策を構築していることがすばらしい。SDGsの視軸を脱炭素先行地域に繋げることを期待する。